

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

セルフチャレンジキャンプ ～自分自身への挑戦～

期日（メインキャンプ） 平成 27 年 8 月 29 日（土）～9 月 5 日（土）7 泊 8 日
（フォローアップキャンプ①）平成 27 年 11 月 7 日（土）～ 8 日（日）1 泊 2 日
（フォローアップキャンプ①）平成 28 年 1 月 16 日（土）～ 17 日（日）1 泊 2 日

○目的

1. 様々な体験活動を通して、現状（ニート・ひきこもり・不登校等）状態からの改善を図る。
2. 寝食を共にした集団宿泊生活を行い、規則正しい生活を過ごすことにより、基本的な生活習慣を身につける。
3. 自己の生活、内面を振り返る機会を与え、現在の生活の改善に結びつける。
4. 参加者を支える保護者へのサポートを行う。
5. ニート・引きこもり・不登校等の生活改善に有効なプログラムを検証する。

○参加者

男性 3 名 女性 1 名 合計 4 名
ボランティアスタッフ（メンター）7 名



○事業の内容

1. はじめの会・オリエンテーション・アイスブレイク



出逢い…。これから始まる生活に不安と緊張…。



アイスブレイキングで、心と体をほぐします。



集団での生活。皆の約束・役割を話し合って決めました。

2. 毎日の生活（食事作り、規則正しい生活、仲間との触れ合い）



話し合いで食事のメニューを決め、スーパーに買出し。



1 週間、毎日違うメニューを作りました。



役割分担を決め、清掃等、一人ひとりが自分の役割を果たしました。

3. 酪農体験（市内かつまた牧場にて）



4. 富士登山2泊3日（須走ルート）宿泊『見晴館』



※2回のフォローアップキャンプは、参加者がそれぞれ社会復帰に向けての一步を踏み出しているため、中止となった。

《エピソード》

高校卒業後、引きこもり状態が長く続いていた A 君は、キャンプでの様々な体験はどれも初めての事ばかりだったが、仲間と協力して大変意欲的に活動した。最終日の報告会、A 君は次のように話してくれた。「僕はこれまで、足元ばかりを見て生きてきた。今回、富士登山で苦しくなったとき、仲間の『顔を上げてごらん』の一言で顔を上げると、そこには大きな美しい青空が広がっていた。これからは、顔を上げて、自信を持って生きて行きたい…。」A 君の言葉に一同大きな拍手を贈った。

《成果と課題》

- 規則正しい生活を継続して行ったことで、生活のリズムできあがっていった。
- 毎日の反省会（振り返り）を行ったことにより、翌日の具体的な目標を持つことができた。
- 同世代のボランティアスタッフがいたことで、参加者を支える環境が整った。
- 課題を抱え、困っている若者が多くいるが、キャンプ参加に至らない。広報活動や関係団体との連携、その他の工夫により、参加者増を目指していく必要がある。